

レーザー超短焦点プロジェクターで原画と映像の融合を演出 間近で見ても観覧者の影が映り込まない大画面投影が実現



©Hiromu Arakawa/SQUARE ENIX

導入先

株式会社ムービック・プロモートサービスさま

- 東京都千代田区
- 1984年設立。キャラクターイベント、展示会、物販イベントの企画・制作等を主な事業として展開。
- 鋼の錬金術師展 東京・大阪会場(2017年9～11月開催) 荒川弘先生の「鋼の錬金術師」(月刊『少年ガンガン』スクウェア・エニックス/2001～10年連載)の生原稿からアニメ制作資料まで一堂に紹介する本作初の大規模原画展。

※鋼の錬金術師展ホームページ <http://www.mbs.jp/hagarenten/>



©Hiromu Arakawa/SQUARE ENIX

導入商品

レーザー超短焦点プロジェクター
PG-LU400Z×1台

- 鋼の錬金術師展の原画展示コーナーに設置し、2017年9月より運用開始。展示の前に立った人の動きに合わせて映像が変化するインタラクティブ映像を原画展示と組み合わせて表示。

販売：株式会社シーマさま

こんなソリューションを実現しました。

導入前の課題

原作の世界に引き込む演出として、展示物の前にお客さまが立つと、作中のセリムという少年の姿をしたキャラクターが正体を現し、無数の目や口がついた黒い影が迫ってくるというインタラクティブ映像を企画。この実現には短焦点で大きく投影できるプロジェクターが必須でした。

超短焦点プロジェクターなので、原画を間近で観覧するお客さまの影が映らない投射角での投影が可能。

従来のプロジェクターよりも画角が広く保てるので、より大きく投影でき、迫力ある空間演出ができました。

レーザー光源なので、水銀ランプを使用するプロジェクターよりも長寿命。長期運用する上で経済的です。



株式会社ムービック・プロモートサービス
イノベーション事業部
係長 梁瀬 翔さま

■ 導入の背景

既存の原画展にはない新しい空間演出を企画。それを実現できる最適なプロジェクターが必要に。

荒川弘先生の大人気マンガ「鋼の錬金術師」の原画展を担当させていただくことになり、本作初の大規模原画展ということで、今までの展示会にはない、作品世界と展示空間をクロスオーバーさせたような新しい空間演出に挑戦しようと考えました。そこで、原画の前にお客さまが立つと、その周りの壁面パネルに大きく絵が現れ、お客さまの動きに合わせてその絵が変化するようなインタラクティブ映像を企画。それを実現するうえで、最適なプロジェクターを選定する必要がありました。

■ 選ばれた理由

超短焦点で目の前に立つ人の影が映らない。最大 150 型までの大画面投影も可能。

お客さまが原画を間近で見ている壁面に、プロジェクター映像を干渉なく投射するのはなかなか簡単なことではありません。通常のプロジェクターでは人の影が映ったり、施工上実現不可能な投影条件でしか設置できないものも多くありました。そうしたなか懇意にしている制作会社さまよりご紹介いただいたのがレーザー超短焦点プロジェクターでした。スクリーンからわずか49cmあれば100型の映像が表示でき、最大150型まで表示できることに納得。人の影が映らない大画面投影を可能にするには、これしかないと導入を決めました。

■ 導入後の効果

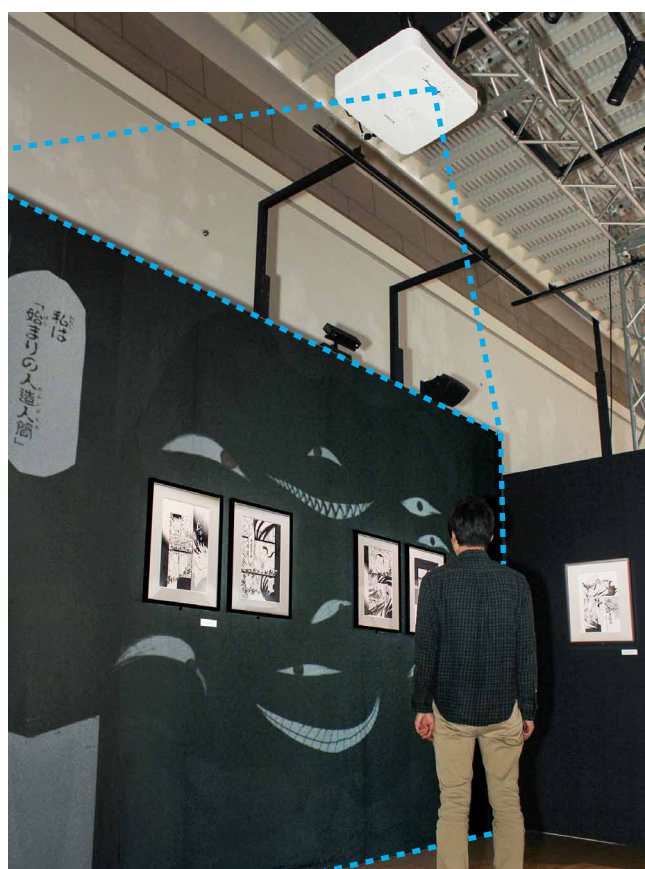
展示の前に立つと映像が迫ってくる演出が実現。まったく新しい展示手法に来場者から高い評価。

原作の世界に引き込む演出として、原画の前にお客さまが立つと、作中のセリムという少年の姿をしたキャラクターが正体を現し、無数の目や口がついた黒い影がお客さまをめがけて迫ってくるというインタラクティブ映像が完成しました。原画の間近に立っても影が映らない点は、今回の展示作品と映像を融合させた演出にとってもマッチしていて、Twitter 上でのお客さまの反響もたいへん大きく、好評を博しています。

■ 今後の展望

レーザー光源ならではの長寿命もメリット。優れた再現性・汎用性を活かし、今後も活用。

東京、大阪と、およそ3カ月の長期間にわたってプロジェクターを投射し続けましたが、途中でランプ交換が必要になることもなく、安定して運用できた点にもコストメリットを感じています。再現性が高く、汎用性にも優れているので、また同条件の案件があれば、本製品を今後も活用したいと考えています。



展示原画の間近に立ってもお客さまの影が映らない



天井設置したレーザー超短焦点プロジェクター<PG-LU400Z>